

平成25年度 センター研究（主事研究）の概要

〈センター研究全体のテーマ〉

「学校教育を支援する実践的研究」

A. 課題研究 喫緊の教育課題について研究する。

A-1 「防災教育研究」

【研究主題】 児童生徒の発達の段階に見合った防災教育の指導法の研究
～自ら命を守る主体性と支え合う心の育成を目指して～

【研究の概要】

本研究は今年度、2年計画の2年目にあたり、昨年の調査・研究から明らかになった県内外の防災教育・防災訓練の現状と課題を踏まえて、地域の実情に応じた地震災害における減災の視点に立ち、児童生徒の体験的な学びを取り入れた防災教育の指導事例を作成し、その有効性を検証・提示するものである。

【研究の目標】

- 自ら命を守る主体性と支え合う心の育成を目指した、児童生徒の発達の段階に見合った防災教育の指導法を研究するという全体目標に変化はないが、今年度は特に、次の3点を具体的目標とする。
- ①昨年の防災教育の効果的検証尺度試案に関する研究を継続し、児童生徒の変容を評価するための検証資料としての事前・事後チェックリスト（アンケート）とOPPシートを作成し、活用する。
- ②自ら命を守る主体性・減災・支え合う心という3つの視点に着目した小学校の低学年、高学年、中学校、高等学校という4つの各発達段階でのそれぞれの防災教育の到達目標をより具体化し、指導目標を明白化する。
- ③防災教育の指導計画作成に有効な指導事例を提示するため、「DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営訓練）による防災教育」と「防災に関する心の教育」の2つのテーマのもとに体験的な学びを取り入れた指導事例を作成して授業を行い、その有効性を検証する。

A-2 「理数教育」

【研究主題】 理数教育の充実を目指して
～実態調査等の分析を受けた単元の指導モデルの作成と検証授業を通して～

【研究の概要】

本研究は3年計画で行われている研究の2年次である。1年次の研究では県内の中高生、理科数学担当教員にアンケートを実施した。その結果、単元ごとの自信指標（理解度）、興味指標（好感度）、自らの将来との関係把握指標（生活での役立つ度合い）についての実態を把握することができた。

同時に、全国学力・学習状況調査や教育課程実施状況調査の分析をし、全国と山梨の生徒の実態や課題を知り、まとめることができた。

その分析結果を受けて、2、3年次では、定着の度合いに課題のある単元についての指

導モデルを作り検証授業を行う。そのうち、今年度は、年度の後半に行う単元における指導モデル作りとその検証授業を行う。

【研究の目標】

理数教育の充実をはかるために、昨年度の実態調査より課題が見つかった単元について、今年度は単元の指導モデルを作成し検証授業を実施する。

A-3 「言語活動研究Ⅱ」

【研究主題】 言語活動の充実を図る学習指導の在り方（2年研究の1年次）

～小・中・高の接続を踏まえて、国語科と他教科とを関連づけた
指導モデルの開発～

【研究の概要】

本研究では、小・中・高の接続を踏まえ、まず小・中学校における国語科以外の教科・領域で「言語活動の充実」を図るための国語科で培った「言語に関する能力」を整理する。そのうえで、国語科で培ったその能力と、他教科の学習内容や学習方法をどう関連付けをすれば学力の向上につながるのか、「言語活動の充実」を意識した単元の構想図を作成する。その構想図をもとに学習指導案を作成し、検証授業を通してその有効性を明らかにする。そこから得られた指導の方法やポイントを、指導モデルとして具体的に提示するものである。

【研究の目標】

小・中学校において、国語科で身に付けるべき「言語に関する能力一覧表」を作成し、それをもとに中学校における他教科の「言語活動の充実」を意識した単元の構想図および学習指導案を作成する。検証授業を通してその有効性を明らかにし、どの教科、どの校種にも活用できる指導モデルとして提示するとともに、指導の方法やポイントを示す。

B. 相談支援研究 教育相談及び特別支援教育に関する課題について研究する。

B-1 「教育相談」

【研究主題】 「教育相談における学校支援のあり方」

～山梨県総合教育センターにおける相談支援の取組から～

【研究の概要】

事例検討を通して、本センター教育相談担当における関係諸機関との連携の成果と課題を明確にし、具体的な改善策を探る。特に、特別支援教育担当と適応指導教室（こすもす教室）との連携事例を軸として研究を進めることで、本センターにおける相談支援の特性についても明確にしていく。

また、アンケート調査や全教連山梨大会での発表と討議を通して、他県の相談支援における関係諸機関との連携状況を把握し、傾向等を分析することにより、今後の相談支援に生かしていく。

【研究の目標】

- ・事例検討を通して、本センター教育相談における関係諸機関との連携の成果と課題を整理し、今後の相談支援に生かす具体的な方策を検討する。
- ・他県での教育相談における諸機関との連携状況を探り、傾向をまとめる。

B-2 「特別支援教育」

【研究主題】 特別支援学級における自立活動の指導に関する研究Ⅲ

～「自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導ガイドブック」
の作成を通して～

【研究の概要】

自閉症スペクトラム障害のある児童生徒は、知的障害の有無と関連して実態が多岐にわたり、多様な指導が必要とされている。そこで児童生徒の調和のとれた育成を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導である「自立活動」に焦点を当てた研究を行う。

昨年度、作成した実態把握チェックリストと指導手順モデル〔チェックリストを活用した実態把握→目標の設定→指導項目の選定→指導内容の設定（教材教具の選定）→評価〕を現場で活用・検証し、改善を行う。また、実践事例については継続して収集・整理し、自立活動の指導内容と結びついた実践事例集を作成する。

本研究は平成23年度から3年間の継続研究の3年次であり、指導手順モデルと実践事例集をまとめた「自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導ガイドブック」を作成し、県内各小中学校の特別支援学級での活用と指導の充実を図る。

【研究の目標】

児童生徒の実態に応じた授業を組み立てていくための「自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導ガイドブック」を作成し、自立活動の指導の充実を図る。

C. 情報教育研究 情報教育に関する課題について研究する。

C-1 「情報教育」

【研究主題】 「全ての校種における情報教育の具体的展開に関する研究」

～情報活用能力を育成する授業実践事例の整理・分析を通して～

【研究の概要】

児童生徒の情報活用能力の育成を図るためには、教員の情報活用指導力の向上が必要である。教員の情報活用指導力の向上をサポートできるように、「教育の情報化に関する手引」に示されている指導事例をさらにわかりやすく示した指導資料を作成し、発達段階に応じた指導の視点を示す。

【研究の目標】

教員の情報活用指導力の向上をサポートするための指導資料を作成し、発達段階に応じた指導の視点を示す。

C-2 「ICTの活用」

【研究主題】 ICTの効果的な活用に関する研究

～小学校における、電子黒板等で活用するデジタル教材の作成・収集・発信～

【研究の概要】

本研究は、小学校の教科、領域の学習において、電子黒板、デジタルTVに映して活用することで児童の学力向上に効果が期待できるデジタル教材の収集・作成、発信を行うも

のである。今年度はその効果の検証を行い、成果を公表することで、県内小学校の学習指導における ICT の活用を支援する。

【研究の目標】

- ・ 県内小学校における ICT の整備、活用状況、デジタル教材への要望を調査し、実態を把握するなかで、小学校の教科、領域の学習において電子黒板等に映して活用するデジタル教材の作成、収集を行い、その学習効果を検証する。
- ・ 本研究により作成、収集したデータを、県内教員が気軽に活用できる環境を構築する。
- ・ 作成、収集したデジタル教材を「授業のこの場面でこう使うと効果がある」という指導モデルを作成、公開する。
- ・ 研究成果を公表し、県内教員のデジタル教材および ICT 機器の活用意欲を向上させる。

C-3 「校務の情報化」

【研究主題】 小・中学校を含めた県域サポート体制の構築に向けた調査・研究
～学校と教育センターをつなぐ研修情報システムの在り方について～

【研究の概要】

全国の研修会の運営実態を調査・分析し、現行の研修情報システムを評価し、受講者側のユーザビリティの向上や研修会運営担当者側の処理の効率化の視点から有効な改修ポイントを洗い出し、今後のシステム改修に生かす研究をする。

1年次 研修会運営に関する全国調査と有効なシステム要件の整理

2年次 情報研修システムの改修の評価

【研究の目標】

研修会運営に関する全国調査を実施し、ICT技術を活用した研修運営と受講者のユーザビリティの向上に関係する諸条件を明らかにするとともに、総合教育センターの研修情報システムの実態に即した改修を行う。

D. 教育課程実施状況調査に関する研究

【研究主題】 確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方
～山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の分析を通して～

【研究の概要】

小学校及び中学校の児童生徒の学力実態や課題等について調査研究し、分析したデータに基づき学習指導の在り方を探る。調査研究にあたっては、全国学力・学習状況調査を補完する調査と位置付け、その調査で未実施の小学校6年の社会、理科と中学校3年の社会、理科及び外国語（以下、英語）を具体的な研究対象教科とする。

義務教育課及び学校現場教員と連携しながら研究委員会を立ち上げ、調査研究を行う。

まず、児童生徒の学力及び学習状況を、全国値（全国における実施校全体の値）や平成24年度の結果と比べながら把握する。次に、その値が低く補強を要する点（課題点）に重点を置いた授業改善プランとそのチェック問題を作成する。その上で、実際に検証授業を行い、授業改善プラン等に基づく具体的な授業活用例を提示する。

次に、県下小中学校へそのプラン等の周知を図り、授業などにおける取組を促し、児童生徒一人一人の「確かな学力」の定着を目指す。

【研究の目標】

各教科等の指導において、山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の分析を通して、本県児童生徒の各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況や児童生徒の学習に対する意識を把握し、今後の学校における学習指導の改善に役立つプランを開発する。